

## 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業

令和3年度 第2回 飯倉駅前地区まちづくり協議会／専門部会

### 合同会議 議事録

日時	令和3年12月11日(土) 15:00～16:30
出席者	<p>■協議会委員</p> <p>井上 峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長 江波戸 秀雄 匝瑳市豊栄地区シニアクラブ会長 宇井 昭夫 匝瑳市シルバー人材センター会長 眞田 心哉 千葉興業銀行営業支援部長代理 代理出席 斎田 忠 千葉興業銀行八日市場支店長 宇野 智弥 匝瑳市介護事業者連絡会 加瀬 功一 匝瑳市ボランティア連絡協議会長 吉本 光志 豊栄地区社会福祉協議会長 椎名 英夫 幼稚園・保育園運営者代表 片岡 博之 豊栄地区区長会長</p> <p>■専門部会員</p> <p>井上 峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長(再掲) 加瀬 功一 匝瑳市ボランティア連絡協議会長(再掲) 眞田 心哉 千葉興業銀行営業支援部長代理 代理出席 斎田 忠 千葉興業銀行八日市場支店長(再掲) 大久保 彰彦 八日市場青年会議所社会開発委員会担当副理事長</p> <p>■オブザーバー</p> <p>近藤 克則 千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授 千葉大学 大学院 医学研究院 公衆衛生学 教授</p> <p>■事務局</p> <p>社会福祉法人九十九里ホーム 江波戸 美代 専務理事 鈴木 敦子 事務長 庄村 秀泰 コーディネーター</p>

	特定非営利活動法人元気な日本をつくる会 武藤 克哉 組織運営本部事務局長	
議事録	事務局	1 開会 開会のあいさつを行った。
	事務局	2 議事 (1) 本年度、協議会/専門部会について ①スケジュール ②委員会メンバー紹介 (2) 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業について ①事業概要、工事進捗状況 ・サービス付き高齢者向け住宅「聖アンナ館」 ・地域交流センター「ナザレの里」 ②平成28年度～令和2年度 of 取組みについて ③令和3年度 of 取組みについて ・移住、定住へのPR手法 —PRパンフレットの配布 —PR動画の活用 ・地域交流センターの活用 —生涯学習施設の具体的運営方法の検討 —農産物直売所の運営検討 —移住者等に対する支援プログラム (3) 第1回 協議会/専門部会委員のご意見紹介 (4) 今後のスケジュールについて ・第3回協議会：3月5日（予定）
	井上峰夫 会長	ここまでのところ、ご意見いかがか。
	A 委員	顧客向けにサ高住の見学会を行っているという聞いていたが 評判や申込状況はどうかお教え頂きたい。 もう1つ、交流センターについてだが、ボランティア連 絡協議会としては他の団体や若者の知恵を頂いていこうと 考えており、交流センターとも連携していきたいと思っ

		<p>いる。農福連携の活動については雇用創出の観点からも期待しており、これまでの匝瑳市にはなかった色々な運営が出来るのではないかと思う。</p>
	事務局	<p>12月10日から見学会を実施しているが、9名程度の方が見学をして入居するか検討したいと申込んでいる。サ高住の入居者については、全49戸のうち26戸はほぼ確定している状況である。</p> <p>サ高住の建設については天候不順もあり、予定より遅れている。現状で早ければ21日、遅ければ28日に引渡しになる予定である。</p> <p>入居者については要支援の認定を受けていない人から、要支援1～要介護3までの人が、年代は70代から90代までとなっている。その他、夫婦で入りたいとの希望があり、このケースではそれぞれ1部屋ずつ入居いただくこととなっている。</p>
	A 委員	<p>移住というのが1つテーマになっているが、そのような方から申し込みはあるのか。</p>
	事務局	<p>都市部からは少ない。都市部への広報活動がコロナにより出来ていない影響があるのではないか。</p>
	A 委員	<p>近隣市外と市内で埋まってしまう可能性もあるが、今後見学会により増える可能性もあると考えてよいか。</p>
	事務局	<p>可能性はある。</p>
	B 委員	<p>銀行としてもこの取組みに関しては協力していきたいと考えている。</p> <p>飯倉駅の魅力は国道126号バイパスに近く、国道からロータリーへの導線が良い。かつ飯倉台から飯倉駅方面になだらかなひな壇の下り坂でメインストリートが整備されており、かつホームは島式ではなく単一であり、飯倉台方面に駅から行くには橋を渡らず、フラットアプローチとなっている。</p>

		<p>電車を降りてそのままバリアフリーで車いすや、自転車の乗り降りができ、他の総武本線の駅より利便性が高い。既に今後エスカレーター等の設備投資は不要な良い駅だと考えている。</p> <p>九十九里ホームの介護、医療施設が駅を囲むように建設されて駅と飯倉台のまちと一体化しており、健康増進、病気予防、手当、子育てとのシナジー効果があると考えている。</p> <p>また、太平洋が近く、サーフィン、サイクリングなどサークル活動可能な魅力的なエリアである。そのほかにも、八日市場中心部、飯高地区など観光資源が豊富であり、利用しやすいとてもコンパクトな駅となっている。中核である八日市場駅を補完し匝瑳市の第二の拠点となっている魅力的なまちだと考えている。</p> <p>さらに飯倉駅の魅力を極大化するために、各団体、匝瑳市とコラボレーションし発信していくことにより、飯倉駅前地区まちづくり交流ゾーンを活性化させていきたいと思っている。</p> <p>C 委員 今年度から豊栄地区区長会長をやらせて頂くことになった。私が区長会長としてやっている間に地域交流センターを作ってもらい、地域の住民といかに交流していけるかを是非ヒントを頂きながら連携を模索していければと思っている。</p> <p>D 委員 飯倉駅の前でこれは何を作っているのと話している声をいまだに聴くことがある。自分たちが関われる場所だと言うことが分かる看板を出すべきではないか。駅前、国道沿いに看板等を使いアピールしていくべきだと考える。</p> <p>E 委員 介護福祉の観点からお伺いしたい。サ高住もそうだが、現在福祉業界は働き手が絶望的に不足している。匝瑳市内であっても近隣市町村であっても撤退している介護事業者が出てきている。今回説明にあったサ高住についても要介護3の人までいるとの話があったが、ヘルパーの高齢化がかなり進んでいる中で人員確保と1社に人員が集中するこ</p>
--	--	--

		<p>とにより他の事業者へのスタッフが減少し、それが匝瑳市の地域資源の減少につながらないか疑問がある。</p> <p>もう1点、今回近藤先生が来て頂き貴重な講演を行って頂いたが、市の高齢者支援課さんが1人も来ていないのが残念だ。</p> <p>おっしゃる通り、今一番困っているのは人不足である。私どもは法人として少しでもこれを緩和するために、県から認可をもらい介護職員実務者研修やヘルパー養成のための研修等を9年程度行ってきているが、それでも足りないのが現状である。看護師の引き抜き合いなどの行為はあってはならない。信義に反することはしないでお互いが協力し合い、介護人材の問題を解決していきたいと考えている。</p> <p>サ高住を利用される方で、介護が必要だという人に対しては定期巡回・随時対応型訪問介護看護も検討している。</p>
	井上峰夫 会長	<p>個人的な話ではあるが、PCR検査を九十九里ホームにスムーズに対応して頂けた事があり、感謝している。</p> <p>認定こども園については既にスタートして定員を満たしているという素晴らしい活動状況ではあるが、この後大事なのは研修だと考えている。職員のレベルアップを図る事がこの地域だけではなく匝瑳市全体のレベルアップにつながるのではと思っている。是非この地区が発展していけるように私たちも努力し協力していきたい。</p>
	F 委員	
	G 委員	<p>匝瑳市のまちづくりは注目している。これからは地域の交流は大事だと考えている。また、このまちは立地条件も良くこのような事業が展開されることを素晴らしいと思っている。</p> <p>近藤先生がいらっしゃるので、1点質問をさせて頂きたい。事例でお話して頂いた地域の行政との関りほどの程度だったのか。</p>
	近藤克則 教授	<p>愛知県武豊町の事例であれば、武豊町をどうにかしなければと考えている職員が多かった時期だったと感じてい</p>

		<p>る。公務員の世界は2～3年毎に異動があり、「今の課長はやる気があるのでチャンスです」というようなお話を聞くことがある。武豊町がサロンを立ち上げる時は社会福祉協議会の方も福祉課の職員の方もこのままではいけない、何かしないといけないと感じている方が多くおり、私に声がかかったという流れである。</p> <p>コロナで地域経済の打撃が大きく、今から考えないといけないのが消滅可能性都市に認定されている中で、放置していると廃れていってしまう可能性が高いということ。お互いに支えあえる環境、例えば地域交流スペースに地域の企業の方や地域の住民の方に積極的に来て頂いて、お互いメリットのあるような活動を進めて行くことが大事である。</p> <p>講演を聞かせて頂いて運動というのは重要だと再確認した。この時期運動できる場所はたくさんあるが、簡単にできる事はあまりない。過去に内閣府のデータか何かを見たときに地方の方が都心より肥満が多いとのデータを見た記憶がある。今日の講演にもつながる話であり、運動をあまりしないから肥満になり、健康に悪影響となる。生涯学習室を活用するにあたっては運動を取り入れる必要があると思う。運動といってもその場限りではなく、常にできるような運動の仕方を教えるようなものがよいのではないかな。</p> <p>安直ではあるが、九十九里ホームが取組んでいく場合はリハビリの職員が高齢者の為の効果的な運動方法のレクチャー等の講演を行う方法も検討できると思っている。</p> <p>人材不足という問題をどうしたらよいのか。私たちボランティア連絡協議会で中学生のアンケートを取ると、ボランティアをやりたいと言う学生は匝瑳市内800名程度の学生のうち70%程度が興味がある、もしくは体験をしたいという回答が出ている。</p> <p>これからは中学生を何とか開拓していかないと、今後の人材不足を解決できない。今の学生はお金より生きがいや働き甲斐を重視する人が多い。この学生のニーズをどう取</p>
	H 委員	
	井上峰夫 会長	
	A 委員	

		<p>り込むかが重要と考えてる。</p> <p>匝瑳市は魅力度ランキングで1000都市中995番目である。行政や議会に頼っても仕方がない。我々が頑張るしかない。その一つとして若者をうまく教育し取込んでいく必要がある。</p> <p>もう一つ、交流センターの一番の肝は誰が運営するかである。事務局長を置き、企画立案から運営までを行っていく。その事務局長のリーダーシップ次第でうまくいったりいかなかったりすると思う。これをみんなで協力していくことが大事である。</p> <p>おっしゃる通り、ボランティアを若いうちから取込む動きは大切だと感じている。当法人では特別養護老人ホーム「シオン」にてボランティア体験を募集しているが、対応しきれない人数の応募がある。</p> <p>今年度は3月まで行っており、1回に15名程度募集している。</p> <p>前回の議事録を拝見すると、施設内にコーヒーショップなどのカフェを作ってはどうか、という意見が複数あった。現在、スターバックスは匝瑳市にはない。佐原のスターバックスでは交流スペースがあり、地元の中学生がお祭りのお囃子を行ったりしている。そのような取組ができれば面白いと思う。</p> <p>大手のカフェでなくても、若者でカフェをやりたい方にやってもらい形もよいと思う。地元の有名なカフェや知られていない匝瑳市のお店などもまだまだあるので、期間限定で出店いただく方法も検討できるのではないかな。</p> <p>直接は関係ない話にはなるが、現在少子化が進行している。コロナの影響もあり結婚が遅れる、妊娠をずらすなど、少子化が進み将来の働き手が減少する。皆様にはもう一度この現状を認識して頂きたい。</p> <p>地域交流センターの活用についてだが、せっかっくの交</p>
	井上峰夫 会長	
	B 委員	
	E 委員	
	F 委員	
	G 委員	

	<p>H 委員</p> <p>井上峰夫 会長</p> <p>近藤克則 教授</p>	<p>流センターなので幅広く活用できればと考えている。</p> <p>先ほど魅力度ランキング995位との話があり、びっくりしている。ここから1位を目指すのは難しいが、995位から900位になれば95ランキングが上がることになる。そういった目指し方はあるのではないかと。</p> <p>子育てでは流山市が話題になっており「母になるなら流山市」というキャッチコピーは非常に頭に残る。やはり広報をやるときにはこの頭に残るものというのが重要である。そういったキャッチコピーを作るとすごくPRになるのではないかと。</p> <p>最後に近藤先生から一言お願いしたい。</p> <p>皆さんの話を聞く中で、いくつか思い出した過去の事例をご紹介させて頂く。</p> <p>なぜ歩かないかという一例としては、健康のために歩くと「お前は暇なのか」と言われたり、地域交流スペースができたのでみんなで活動を始めると「お前らは遊んでいるのか」と言われる。農村的な地域だと時間があるなら畑に行って農作業をするのが文化であり、健康のために歩くということがその地域では受け入れられずネックになるというケースをよく聞く。つまり、個人で行うとうまくいかない。そういったときに行政の持つ力というのがカギになる。地域の課題を解決するために行うべきだという働きかけを市や町が行うことで解決できる。</p> <p>次に、地域を変えるときにカギになる人物は3種類いると言われており、「若者、よそ者、馬鹿者」である。先ほど話があった中学生はまさしく「若者」である。ある地域で中学生に自分のまちの10年後20年後どうなってほしいかを中学生たちに考えてもらい、提案書として市長に渡してもらった事例を聞いたことがある。今回の交流センターで言えば、交流センターを1週間自由に使っているので中学生に企画してもらおう。さらに言えば地元の中学校何校かで1週間ずつ順番に企画してもらおう事で競争しあう。少</p>
--	---	---



	井上峰夫 会長	<p>なくともここで話しているより面白いものができるのではないか。中学生だけが何か行くと親も心配になり協力したり付いてきたりするので、中学生を起点にして考えるのは面白いのではないか。</p> <p>この地域での「馬鹿者」が誰なのか私には分からないが、皆様が思いつく「馬鹿者」に仕掛けていくとよいのではないか。</p> <p>「よそ者」については別の組織という意味では「農協」が協力してくれたという事例をよく聞いたことがある。その他、「JTB」がツアーものやイベントものとして手伝ってくれたと言う話も聞く。</p> <p>その他、色々な可能性はあると思うので、諦めずに試してみることが大事だと思うので、ぜひ頑張っていて頂きたい。</p> <p>貴重な講演ありがとうございました。</p>
	事務局	<p>5 閉会</p> <p>次回は3月5日（土）協議会開催予定。</p>